

交通安全かわら版

令和2年10月
茨城県警察本部交通総務課
NO. 54

～ 反射材の活用促進 ～

つけよう！反射材

反射材は光が当たらなければ効果がありません。

体の前後だけではなく、横断中によく見える体の側面や、大きく動く手足につけると効果的です。

夕方や夜に出かけるときは、玄関を出る前に必ず反射材をつけましょう。

内蔵のLEDライトが点滅したりする「自発光式」の反射材は、光が当たらない場所でも効果があり、遠くから確認できます。



輝かせよう！暗くても

※ 画像はイメージです

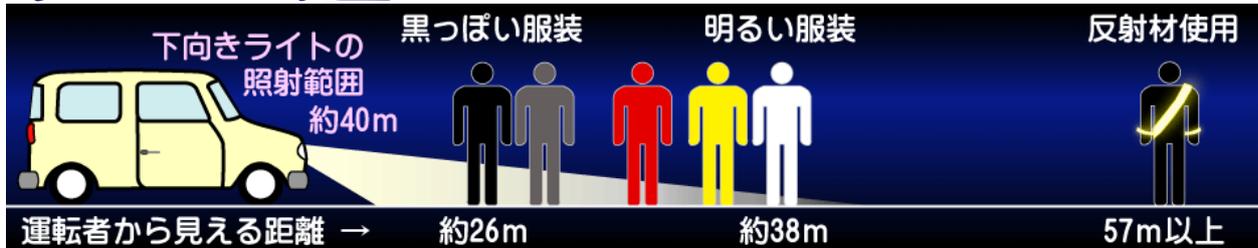


明るい場所では、「赤」や「青」など鮮やかな色が目立ちますが、暗い場所では「白」に近い明るい色ほど良く見え、「黒」に近い暗い色ほど見えにくくなります。

夜間自動車の運転者から見える歩行者の姿も、ライトの向きや歩行者の着ている服の色により、確認できる距離が変わってきます。

反射材使用の場合は、自動車のライトが下向きでも反射します。

みせよう！遠くまで



夜間自動車のライト下向き走行で、歩行者が見える距離は、黒っぽい服装は約26m、明るい服装は約38mですが、反射材使用の場合は57m以上まで見えます(※1)。

自動車が時速60kmで走行した場合の停止距離は約40m(※2)、反射材を使用していない場合、気付いてからブレーキを踏んでも間に合わない可能性があります。

※1 歩行者の見える距離は目安です。反射材の材質や装着位置、車のライトの光量、天候等により変わります。

※2 自動車の停止距離は、乾燥した舗装路面での数値で、路面の状況や運転者の反応時間等により変わります。